



# 俳句ゆめクラブ会報

2022年2月22日

第 141 号

疫病の退散せよと豆をまく

鈴木幸恵

## 互 選

今日も日差しが明るい、人間共がコロナ感染やウクライナ情勢で右往左往している間に自然はその営みを何事もなく進めて季節を変えて行く。この自然の中でその一員であり、限りなく小さな存在たる我々は日々の生活に少しでもその移ろいの感動を取り入れ、己の心にもそれなりの年輪を加えて行きたいものである。

白梅の唯我独尊輝けり  
吾撒きて妻は拾ひ手年の豆  
鬼も去れコロナも去れと豆撒けり  
堂々と十三才が鬼やらふ  
旅人の寄れる法灯雪の花  
どれが長川面に集ふ鴨の群れ  
冬夕焼薄墨色の富士抱く

小林健一郎  
八千代幸男  
宮島昭夫  
浅見法子  
大井昭子  
長澤輝子  
吉澤愛子

庚申塔そつと寄り添ふ水仙花 (3票) 浅見法子  
藪原を薄化粧せり春の雪 (4票) 岡田時雄  
氷上に鶴舞ふごとしペアダンス (3票) 八千代幸男  
古墳より浅間くつきり寒の晴 (3票) 鈴木幸恵  
春光の瞬間翳り雲流る (3票) 瀬戸川公子  
数々のいのちを抱きて山眠る (3票) 小林健一郎  
冬夕焼薄墨色の富士抱く (4票) 吉澤愛子  
鍵束に新しき鍵春立てり (4票) 梅田ひろし

〔句会〕県活203号室 13時～14時50分

《入選》

## 梅田先生の句

大声は父親ゆづり鬼やらふ  
うららかやクツキー鳩の形して  
鍵束に新しき鍵春立てり

涙返る突然友の訃報あり

宮島昭夫

〔決定事項・連絡事項〕

・次回吟行 3月29日(火)・注意・第5火曜日です

## 市民の森

宇都宮線・土呂駅改札口前に10時集合

句会 見沼グリーンセンター 小会議室

13時より (13時より開場)

・吟行の所には食事処無い為、各自弁当持参の事。

・本日は12名全員出席

《特選》

## 梅田先生選

リハビリに通ふ坂道冴え返る  
水仙花そつと寄り添ふ庚申塔  
藪原の薄化粧せり春の雪  
氷上に鶴舞ふごとしペアダンス  
うすらひを競ひ踏み割る登校児  
古墳より浅間くつきり寒の明け  
春光の翳りて雲の流るるや  
あまたなるいのちを抱き山眠る

鈴木幸恵  
浅見法子  
岡田時雄  
八千代幸男  
宮島昭夫  
鈴木幸恵  
瀬戸川公子  
小林健一郎

あどけなき豆撒きの声保育園  
いちにちの静かに暮れて福は内  
小袋の豆の撒かれて節分会  
陽光に動き出したる名草の芽  
オミクロン鬼ともどもに豆を打つ  
輝ける光を放つ福寿草  
節分やマンション通路の豆を踏み

浅見法子  
小林健一郎  
大井昭子  
吉澤愛子  
大井昭子  
瀬戸川公子  
岡田時雄  
岩松忠子



(小林健一郎記)